

深く憐れんで

シリーズ～新イエス～

2025/3/2

マルコ福音書1章40～45節

さて、重い皮膚病を患っている人が、イエスのところに来てひざまずいて願い、「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」と言った。イエスが深く憐れんで、手を差し伸べてその人に触れ、「よろしい。清くなれ」と言われると、たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。イエスはすぐにその人を立ち去らせようとし、厳しく注意して、言われた。

「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために獻げて、人々に証明しなさい。」しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。それで、イエスはもはや公然と町に入ることができず、町の外の人のない所におられた。それでも、人々は四方からイエスのところに集まって来た。

「重い皮膚病」について

- 体の表面に症状が現れる病気すべて
 - 「らい病(ハンセン病)」の可能性が高い
- 日本でも古くから恐れられた病気
 - 感染症であり、「不治の病」であった
- 病気の原因が分かったのは最近
 - 1873年(明治6年)にノルウェーの医師ハンセンによって「らい菌」が発見された
- 現在では薬で完治する病気
 - 1996年まで「らい予防法」によって差別されていた

律法の定め(レビ記13～14章)

• 診断を行うのは祭司

- 祭司が「清い」か「汚れている」か判断する
- 幹部の見え方や、進み方についての詳しい掟がある

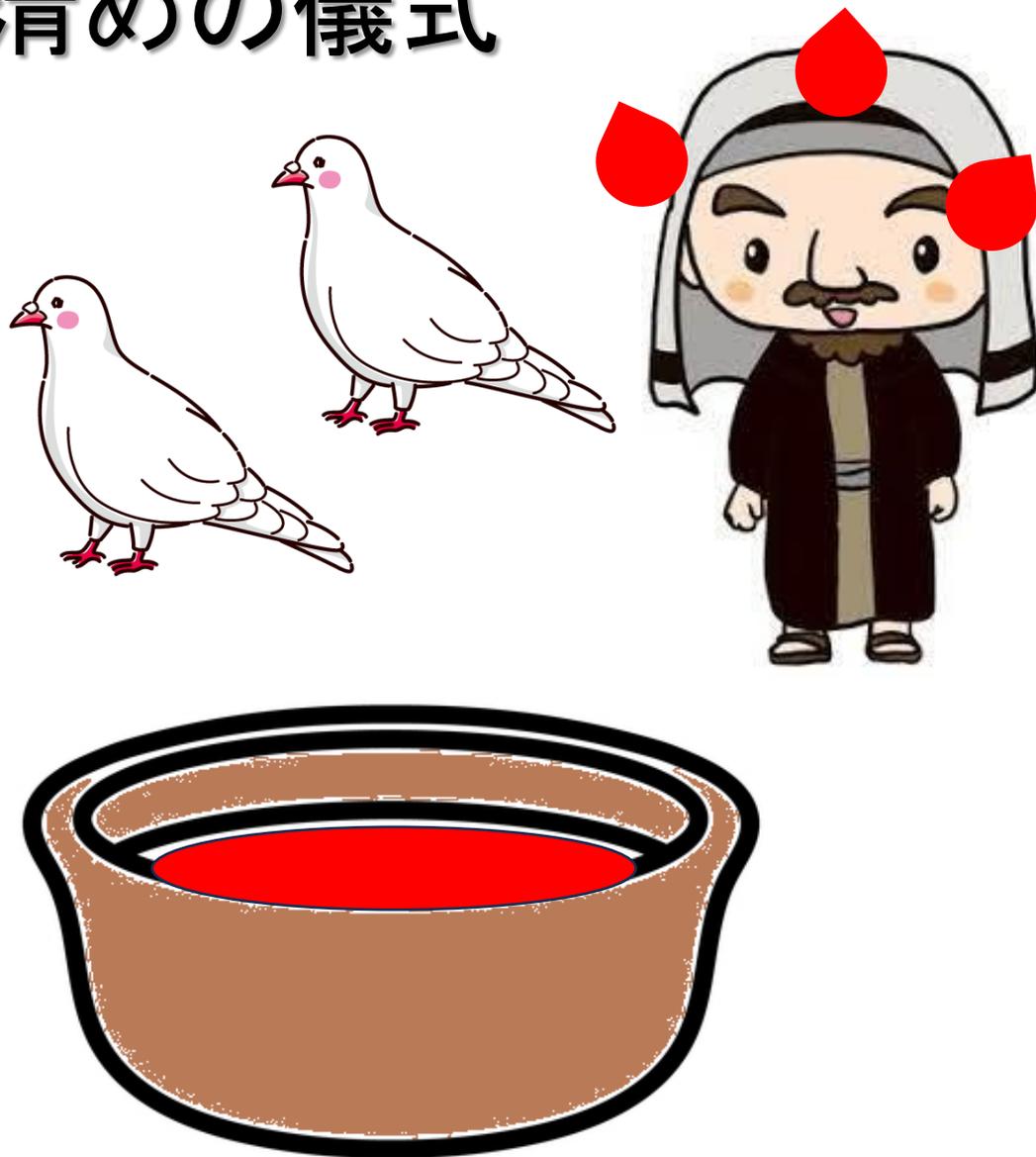
• 「重い皮膚病」であると診断されると

- 「重い皮膚病にかかっている患者は、衣服を裂き、髪をほどき、口ひげを覆い、『わたしは汚れた者です。汚れた者です』と呼ばわらねばならない。…その人は独りで宿営の外に住まねばならない。」(13:45—46)

「清めの儀式」

- 「清い鳥（家鳩）二羽」などを準備する
 - 「生きている清い鳥二羽と、杉の枝、緋糸、ヒソプの枝を用意させる。」
- 血に浸した鳥を野に放つ
 - 「次に、祭司は新鮮な水を満たした土器の上で鳥の一羽を殺すように命じる。それから、杉の枝、緋糸、ヒソプおよび生きているもう一羽の鳥を取り、さきに新鮮な水の上で殺された鳥の血に浸してから、清めの儀式を受ける者に七度振りかけて清める。その後、この生きている鳥は野に放つ。」(14:5~7)

清めの儀式



突然現れた「重い皮膚病」の人

- 本当なら人中に近づくことすらできない
 - 町の外に隔離されていた
 - 「私は汚れた者です」と叫ばなければならない
 - ルカ17章には遠くから叫んだ人たちが出てくる
- 全身を覆って隠れてイエスに近づいた
 - 許される行為ではなく、その場で石打にされても仕方がない
 - 命がけでイエスに近づいた
- イエスの前にひざまずいて願った
 - 「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」

突然現れた「重い皮膚病」の人

- 本当なら人中に近づくことすらできない
 - 町の外に隔離されていた
 - 「私は汚れた者です」と叫ばなければならない
 - ルカ17章には遠くから叫んだ人たちが出てくる
- 全身を覆って隠れてイエスに近づいた
 - 許される行為ではなく、その場では仕方がない
 - 命がけでイエスに近づいた
- イエスの前にひざまずいて願った
 - 「御心ならば、わたしを清くすることがおできになります」

イエスに対する
絶対的な信仰

深く憐れまれたイエス

• 突然の出現にパニックになった

- おそらく“汚れた者がいる”と誰かが叫び、人々は慌ててこの人から離れたであろう
- 怒号と悲鳴が入り混じる中、イエスとこの人だけが取り残される

• イエスはこの人を見て「**深く憐れまれた**」

- 原語“スプラグクニゾマイ”は内臓から派生した言葉で、「腹の底から深い同情を寄せる」の意
- イエスはこの人に背負わされた痛みや苦しみを「**腹の底から**」感じ取られたのである

「手を差し伸べてその人に触れ」た

- 重い皮膚病に人に「触れる」とはその汚れが移り、下手をすると病気に感染すること
 - イエスは「深く憐れむ」あまり、そんなことを全く気にしていない
 - 原語“ハプター”は元々「しぼる」の意である
「抱きしめた」と訳すこともできる！
- 周りの人々は驚いただろうが、本人が一番驚いたことだろう
 - まさかイエスが自分に触れるとは思っていない
 - この人にとっては、病が癒されること以上に、自分に触れて下さったことが幸せだったのでは

清められた人

- 「よろしい。清くなれ」と告げたイエス

- 癒されたというより命じられた

- 一瞬で癒された人

- 「たちまち重い皮膚病は去り、その人は清くなった。」

- 祭司に見せるよう命じる

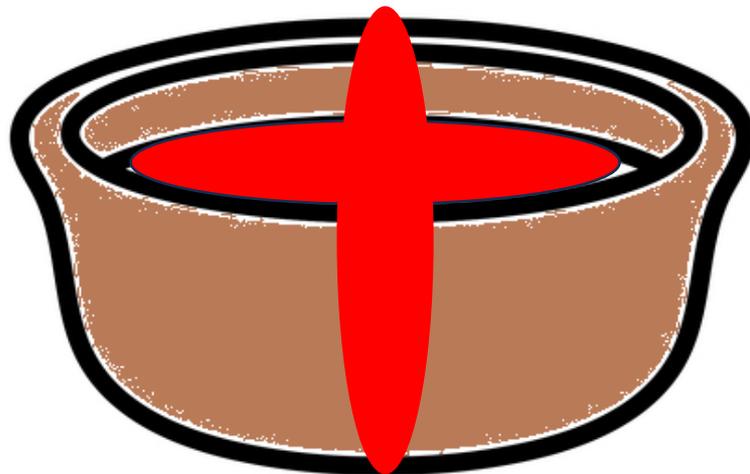
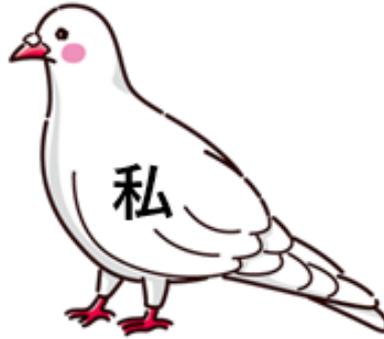
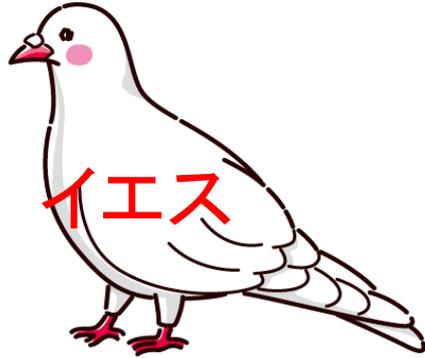
- 「だれにも、何も話さないように気をつけなさい。ただ、行って祭司に体を見せ、モーセが定めたものを清めのために献げて、人々に証明しなさい。」
くまず神との関係を回復すること

- 「しかし、彼はそこを立ち去ると、大いにこの出来事を人々に告げ、言い広め始めた。」

病を身に負われたイエス

- 重い皮膚病に触れたのは、**この人の病を共に負う**ためではなかったのか
 - 「彼が担ったのはわたしたちの病／彼が負ったのはわたしたちの痛みであった」イザヤ53:4
- **イエスは病を背負って十字架で死なれた**
 - 全ての病は人間の罪の結果である
- イエスの深い憐みは罪によって神から離れさ迷っている小羊への愛から生まれている
 - “スプラグクニゾマイ”は「放蕩息子のたとえ」の父が息子を見た時の思いとしても使われている

イエスの血によって清められた私たち



わたしたちはこの御子において、
その血によって贖われ、罪を赦さ
れました。これは、神の豊かな恵
みによるものです。

エフェソの信徒への手紙1:7